◎　東日本大災害に続く福島第二原発事故によって全町民避難という災難がありましたがその富岡が、関東大震災では世界的な大活躍をしたことをご存じですか。
かって（大正 9 年～昭和 8 年）まで磐城無線電信局富岡受信所、原ノ町送信所があり磐城無線電信局長　米村嘉一郎氏は富岡局に勤務しておりました。
　この人が、関東大震災の第一報をアメリカ局へ打電、東京・横浜が壊滅状態ですから、諸外国との連絡線は途絶え、ただ一つの連絡は磐城無線電信局しかなかったのです。
東京壊滅の第一報は直ちにクーリッジ大統領の元に届き、即座に日本救済をきめ、海軍の太平洋艦隊に救済のための出動を命じ、マニラ駐屯（当時フィリッピンはアメリカの植民地）のアメリカ陸軍に対して計 300 人の医療団を編成し東京へ向かえと命じたり、義捐金の募集等矢継ぎ早の行動は、この電報から始まりました。
　それから 1 週間の 9 月 7 日まで関東大震災に関連する情報を船舶局からの情報、河北新報の記事を英文に翻訳し、連日連夜数限りない電報をアメリカ向け打電、その電文情報がニューヨークタイムス、ワシントンポスト等のアメリカの各紙、ヨーロッパへと転電されタイム、ル・モンド、その他欧州各紙に掲載された。
　この功労者である磐城無線電信富岡局長であった米村嘉一郎氏はアメリカやヨーロッパでは日本の英雄として紹介され、ドイツでは小学校の道徳の教科書に記載され、数多くのメダル、勲章が世界の主要国から贈られ超有名人になりましたが、日本では地元富岡でさえ誰も知らない、無関心という不思議な現象が起き、そのまま現在に至っております。

その数多くの電報の中に大統領から大正天皇へのお見舞い電報
大正天皇から大統領宛の返礼電を紹介します。取り扱い局は富岡局です。

電文の原文は、当時の河北新聞記事から捜してきました。

米大統領の御見舞の電報
Coolidge Cables Sympthto Emperor of Japan；Navy Orders
Vessels to Yokohama for Relief.
WASHINGTON, Sept 1 - President Coolidge tonight addressed to Emperor Yoshihito of Japan a mssage of sympathy on the part of himself and the American people for the sufferers from the earthquake in Japan.
The President's message read
“ At the morment when the news of the great disaster which has befallen the people of Japan is being received, I am nieved to offer you in my own name and that of the American people the most heartfelt sympathy, and to express to your Majesty my sincers desire to be of any possible assistance in alleviating the terrible suffering to your people.”